

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第2回教育文化部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第2回教育文化部会）
2 日時	令和元年11月5日 午後3時00分から午後5時40分まで
3 会場	市役所東庁舎 2階 第3会議室
4 出席者	中澤武部会長、犛山永子副部会長、坂口純一委員、城下敦子委員、高見澤津久美委員、滝沢博俊委員、竹田貴一委員、中澤照夫委員、原有紀委員、間島博徳委員
5 市側出席者	中澤教育次長、石井教育総務課長、鎌原政策企画課長、小林交流文化スポーツ課長、久保田交流文化芸術センター副館長、清水市立美術館長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、小泉中央公民館長、清水上田図書館長、池田スポーツ推進課長、木嶋健康推進課健康政策担当係長、宮澤観光課観光政策担当係長、小岩井生涯学習・文化財課主査、西澤教育総務課企画担当係長、宮原政策企画課政策調整担当係長、
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年11月8日

協 議 事 項 等

1 開 会（石井教育総務課長）

2 部会長あいさつ（中澤部会長）

3 議事

(1) 分野別意見聴取（市民意見の集約）について

・前回、委員から推薦等のあった団体について概要を説明

(事務局) 前回の部会の中では、上田市多文化共生推進協会（AMU）から「教育」という視点から話をお聞きしてはどうかという御意見をいただいている。このほかに、真田にある障がい者生活介護事業所といった団体についても御意見をいただいた。今回、あらためて御意見を伺いたい。

(委員) 団体については、今日ある程度決めなければならないのか。

(事務局) 計画では第3回、第4回の部会で予定されているが、中間答申の前までに実施できればよい。今日決まらなければまた次回で御意見をいただき、第4回目でまとめてお聞きするという事も可能である。いずれにしても全部会で統一的に2団体からお聞きする方針である。

(委員) AMUは、お願いしてはいかがかと考えている。もう1団体については、この後の審議を経て、新たな意見も出てくるかもしれないので、後ほどいかかだろうか。

(部会長) この件に関しては、後ほど協議するという事でお願いしたい。AMUに関しては、一つの候補としてよろしいか。

(全員) 了承

(2) 「前期まちづくり計画」の進捗状況及び「後期まちづくり計画」に向けた方向性等について

・部会資料「前期まちづくり計画検証シート」により、部会主担当課長から「表の見方」や事務局の説明方法（節ごとにポイントを絞った補足程度の説明）について説明

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」5-1-1に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) ALTは外国人か日本人か。

(事務局) ネイティブな英語を話せる外国人を、現在10人採用している。

(委員) 小学校・中学校それぞれで10人か。

(事務局) 小・中学校合わせて10人で、小学校に6人配置している。

(委員) 総合計画冊子の106ページ「現状と課題」にある「児童・生徒数の推移」のグラフについて、ここでは平成26年度までの数値だが、これから10年ぐらい先まで試算したデータがあ

ればお示しいただきたい。

(事務局) 次回の部会でお示ししたい。

(委員) 基本施策1の①、少人数学級について、「中学校に市費教員を配置」とあるが、特に中学校の数学教員が小学校に出向いたということは、中1ギャップにおいて数学関係でつまづく子どもが多いということが前提となっているのか。

(事務局) 学力調査の結果を見ても若干下回っている部分があり、数学がつまづきやすい科目であるためと考えられる。

(委員) 中学校4校に市費教員を配置し、小学校9校に出向き920時間の授業を行ったとあるが、イメージとしてどのくらいの量の授業を行ったのか。

(事務局) 現在、数学教員4人を採用し授業に取り組んでいる。中学校区ごとに各小学校に出向いているが、数学の講師が少ないことや経費的な面、各小学校の距離的な事情や学級数・児童数などの状況により、このような数字となっている。

(委員) 学習指導要領が、小学校が令和2年、中学校は令和3年から変わるとのことだが、今回の改訂のポイントはどのようなところか。

(事務局) 教科の部分では、現在、小学校5・6年生で行っている「外国語活動」が令和2年から「英語」として教科化され、3・4年生が「外国語活動」を行うようになることが特徴である。

(委員) プログラミング教育が始まるというのは中学なのか。

(事務局) プログラミング教育は現在、中学校の技術家庭科の中で行っている。小学校でも「プログラミング的思考」という部分の中で、パソコン等を使ったり、実践的な考え方を養うような授業を行っている。

(委員) 先月の台風19号の際、小中学校の体育館も緊急避難場所となっていた。学校施設の整備において、このシートには直接「防災」の観点については触れられていないが、庁内の他部局と調整しながら行っていくということでのよいのか。

(事務局) 防災の観点も含めて、学校施設の整備をするべきであると考えているが、学校の体育館等が緊急避難場所として適しているのか否かは、再度整理をしながら整備方法を検討する必要があると考えている。

(委員) このような緊急時では、体育館よりも校舎棟の2・3階等の方が、避難場所として安全面においては適切かと思うが、学校としてどこまで開放できるかという制約もあるので、防災の面からも学校施設のあり方を検討していただければありがたい。

(委員) 基本施策1の③、「生活・学習ノート『紡ぐ』」は、上田市独自のものということでよいか。

(事務局) ベースは他市のものを参考に「上田市版」として、平成29年度にモデル校を設け試行したものをリニューアルした。

(委員) 以前、「生活ノート」というものがあつたと思うが、違いはどこか。

(事務局) 現在は「生活ノート」に替わって「紡ぐ」を使っており、「生活ノート」と同様の使い方をしていただくということが基本である。持ち物、教科、生活の記録といった記入欄は「生活ノート」と変わらないが、学校での時間の中で、家庭学習について「今日は何を学ぶか」ということを記入するようになっている。そこにはその日の復習でもいいし、予習でも構わないため、時間内に記入してしまえば、どんどん先に学習を進めてよいということになっているため、早ければ早いほど、学習が進められるようになるという特徴がある。

(委員) 平成29年からということは、試行を含めると2年程度は検証期間があると思うが、以前の「生活ノート」との違いは出てきているか。

(事務局) 中学生は1種類、小学生は低学年用と高学年用の2種類があるが、低学年用は漢字を平仮名にしてあるほか、全体的な調整の中で、必要に応じて記入欄を増やすなどの工夫をしている。

(委員) 学習としての効果の検証はまだできていないということか。

(事務局) 「紡ぐ」の活用により、例えば、テストの点が上がったというような検証は難しいが、今年4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果から、「家庭学習の時間が増えた」という項目が数パーセント増えている。また、「一日の学習時間が増えている」といったデータも少し上

がっているので、そのあたりは効果として捉えている。

(委員) 「紡ぐ」は、先生が全て目を通すのか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 保護者も見ているのか。

(事務局) 小学生用には保護者の記入欄や押印欄がある。中学生用にはない。

(委員) 数学の習熟度別クラス編成ということは、実際にどこでもやっているのか。

(事務局) 学校の先生の体制にもよる。中学校では学校の規模や状況によって取り組んでいただいているのが現状である。

(委員) 総合計画冊子の12ページ「施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析」の中で、項目として「学校づくり」と「学校教育」とがあるが、この住み分けはどのようなことか。

(事務局) 似たような表現となっているが、「学校教育」は「特色ある学校教育への取組」で教育の中身の部分、「学校づくり」は「地域に開かれた学校づくり」といった要素として捉えていただければよい。

(委員) 基本施策3の①、「信州型コミュニティスクールの導入」について、クラス活動に対する講師を地域から見つけることに学校が苦慮しているという話を聞いているが、学校支援コーディネーターが手伝っていただけるのか、地域とのつながりの部分で、現在どのような状況なのか教えていただきたい。

(事務局) 各学校単位で、地域に関することについては、地域の方に補完していただいているが、その間を取り持つのがコーディネーターで、各学校単位におり、学校側の弱い部分について地域の方に補っていただいている。また、各地域の公民館9館にも社会教育指導員がおおり、各エリアの学校を担当している。学校と地域が直接つながることがいちばんであるが、地域の方々にも力をつけていただくため、その支援を公民館が担っているという形である。

(委員) 基本施策3の②、「子どもが放課後や週末に安心して過ごせる居場所づくり」について、評価が「C：停滞」となっているが、持続可能という視点や将来を見据えた視点からとても重要な課題であると考えます。具体的な対策などが記載されていないが、何か現状で行っていることがあれば教えていただきたい。

(事務局) 放課後児童対策では、現在、「留守家庭対策」として児童館・児童センターを運営している。記載の部分については、国から留守家庭だけでなく全ての児童生徒を対象として進めるよう求められている。今後の取り組みとしては、コミュニティスクールとの連携ではないかと思うが、コミュニティスクール自体の課題や、「留守家庭対策」としての児童館・児童センターの利用者が増加している中で、場所や人員の問題もあり、思うように進んでいないのが現状である。

(委員) とても重要な問題であると思うので、早急に進めた方がよいのではないかと。

(委員) 関連で、需要として、児童館・児童センターの土日運営を臨む保護者は多いのではないかと。

(事務局) 実際のところ需要は多いと思うが、統計的には、土曜日の利用は比較的少なく、平日の方が多い状況である。今後は保護者等のニーズも把握しながら進めていきたい。

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」5-2-1に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 5大学リレー講座について、市内には4大学あるが、もう1校はどこか。

(事務局) 昨年から筑波大学（山岳科学センター菅平高原実験所）が加わり、5大学となった。

(部会長) 基本施策1の①、「社会教育施設を利用する学習グループなどへの情報提供や活動の支援を通じて、学びを通じた仲間づくりや交流を促進します。」について、「学習者の高齢化や固定化」や「次世代をどのように社会教育に取り込むか」ということが重要な課題と捉えるが、具体的な取り組みの案やビジョンのようなものはあるか。

(委員) 学習者の高齢化や固定化への対応については、人生100年時代の観点から、今後も様々な情報発信の方法を検討していきたい。また、次世代の取り込みについては、成人式の実行委員として運営に関わってもらっている20歳の子たちに、成人式以降にもつながっていくような

活動について検討している。

(委員) 基本施策1の②、第二次上田市図書館基本構想が策定され、今後は上田図書館の施設整備のあり方を検討していくとあるが、方向性や計画はどのようなものか。

(事務局) 上田図書館は建設から50年経過し老朽化が進んでいるため、改築を基本に整備していく考えであるが、具体的には市の実施計画の中で位置付けていかなければならない。

(部会長) 箱ものの整備は全体の中での優先順位があり、もう一つ要因として大きいのが、市民からの要望ではないか。利用する人の要望が強ければ優先順位も高まるので、市民の声と行政側の考えとをどのように擦り合わせていくかが、実現化するための重要なポイントではないか。

(委員) 構想は素晴らしいものができているが、それに向けた制度設計に至れないところがいかなものか。今後の方向性としては、箱ものを一括的に求めるのではなく、知恵を絞ってつくりあげていくことが、バックキャストの考え方を生かすためにも必要なのではないか。

(委員) 上田では「バリューブックス」さんが、企業として注目されており、若い人たちが利用されているので、うまく組むことができればいいと思う。

(部会長) 企業として経営的にも大成功しており、大きな文化的インパクトもある。

(委員) 耐震工事で、丸子文化会館が来年使用中止となり、その翌年に上田文化会館も使用中止になると聞いているが、これ以外にも工事する施設はあるのか。

(事務局) もう1か所、上田創造館がある。丸子文化会館、上田文化会館、上田創造館の順に行い、3施設の工事が重ならないように調整しながら、ご不便をおかけしないよう進めていく。

(委員) 総合計画冊子の109ページ、「公民館施設利用状況」のグラフで、出典は中央公民館とあるが、利用状況の数字は中央公民館のみのものか、上田市全体の公民館のものか。

(事務局) 全ての館の合計で、取りまとめを中央公民館が行っている。

(委員) 平成23年度から利用者数が増えているが、何か要因があるのか。

(事務局) 平成24年頃から、川西公民館や城南公民館をはじめ公民館の建替えが順次進み、使いやすくなったことも影響しているのではないかとと思われる。

(委員) 生涯学習を推進していくにあたって、情報はとても重要であるので、市民にどのように情報を届けるかという面については、「引き続きできることを実施していく」といくのではなく、もう少し方法論を考えていった方がよいのではないか。

(事務局) 特にSNSの効果が非常に大きいので、前期に想定したようなものではなく、情報発信の仕方を考えていきたい。

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」5-2-2に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 「総合型地域スポーツクラブ」について説明いただきたい。

(事務局) スポーツ基本法で定められた地域密着型のスポーツクラブのことを「総合型地域スポーツクラブ」として定義づけている。市内には、USC、ミックススポーツクラブ、オヤジ改造倶楽部、さなだスポーツクラブの4つがあり、運動だけではなく、文化面での活動も行うことができると位置付けられている

(委員) 野球のリーグなどとは違うということか。

(事務局) 上田市体育協会というスポーツの団体があり、そこに各種の競技団体が所属している。位置付けとすると、体育協会も地域のスポーツの推進を担っていただいております、一方で総合型地域スポーツクラブについても同様の考え方を持ち合わせている。

(委員) ラグビーワールドカップを契機に、若い子たちがラグビーをやりたいという希望を持ったときに、上田市ではスポーツ少年団や民間企業等、指導者も含めた受け皿的なものはあるのか。

(事務局) 上田市ラグビー協会があり、人数は少ないが、そのスポーツ少年団に参加する子どもたちが活動している。また、ラグビーワールドカップに絡めて、ラグビーの普及啓発という意味で県教委からスポーツ指導主事が来ており、小学生を対象にラグビーの体験授業や先生方への指導も行ってきた。なお、子どもたちが取り組めるラグビーとして「タグラグビー」と「タッチ

ラグビー」もある。

この地域には、高校や大学にもラグビー部がないため、上田あるいは東信という単位では難しい状況があるが、地元の中学から県外の高校に進学し、ラグビー部のキャプテンとして全国大会に出場したという事例もあり、何かつながりも持つことができればと考えている。

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」6-1-1に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 日本遺産については、申請は既にしたのか。

(事務局) 一度申請したが不採用であった。あともう一度チャンスがあるので、それに向けてブラッシュアップして再度申請したい。

(委員) もう一度同じ内容で申請するのか。

(事務局) 文化庁からは、国宝があることに注目して、「この地域の中のここしかない」という要素を出した方がよいとのアドバイスを受けており、今回は組み立てを変えて臨んでいきたい。

(委員) その組み立てによっては、上田の観光なども大きく変わってくると思うが。

(事務局) これはあくまでも、インバウンドの手段であり、観光行政とも密接につながっているため、上田の観光を見据えながら狙っていきたいと考えている。

(委員) 上田市誌について、現在、資料はどこで保管・管理されているのか。

(事務局) 現在は生涯学習・文化財課の文化財係で管理しており、販売については、市立博物館や真田庁舎でも行っている。

(委員) 公文書館で管理することについて具体性はどうか。

(事務局) 公文書館については、ようやくスタートしたばかりなので、できれば体制が整ったところで一括管理・販売ができればと考えている。

(委員) 研究資料等については、公文書館のような専門機関に任せる方がよいと考えている。

(委員) 図書館の関係で、長野大学の図書館は市民に開放されているのか。

(事務局) 開放はされていない。

(委員) 他の大学はともかく、公立大学法人長野大学において図書館を市民に開放するという施策を打ち出すことができれば、図書館基本構想についても、大きな箱ものをつくるのではなく、今ある施設や書籍を有効活用することができ、長野大学に対する市民の理解度や参画度も広がっていくのではないかと。

(委員) 図書館は、単なる本を借りるだけの場所ではなく、人が集う場所でもあり情報発信の場でもあると思っている。

(事務局) 本の貸し出しについては、エコーという上田地域の市町村を結ぶネットワークにより対応しており、小・中学校図書館ともネットワーク化しているが、最近徐々に貸出率が低くなっているため、学校と公共図書館との連携を強めていきたいと考えている。

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」6-1-2に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) サントミュージゼのホールは小中学生の発表等で使っているが、美術は子どもアトリエでしか子どもの作品を展示していない。それが逆に足かせになって、保護者や家族のほかに市民の方がどれだけ足を運ばれているかということを重要と考えている。

(委員) 子どもアトリエの講座については、いろいろな講師の方が、グループや家族などいろいろな表現方法で教える機会を子どもたちに与えてほしいと思う。

(委員) サントミュージゼの開館後5年経過した中での、費用対効果という側面についてはどこの部会で担当するのか。

(事務局) この審議会では、実施している事業等に対してご審議いただきたい。効果等の検証については、サントミュージゼが5年経過したということで、今までの事業の効果や経済的效果等を含め、現在、第三者による運営検証委員会を設置し検討しているので、その点についてはまた別の形で報告させていただくことになる。

(事務局) 部会資料「前期まちづくり計画検証シート」6-2-2に基づき説明

(部会長) 御意見、御指摘、御要望、御提言等はあるか。

(委員) 長野大学に関する記載内容については、大きく指針が替わるということによいのか。

(事務局) 公立大学の設置者としての今後の施策について、この「交流・連携」という範疇に入れておくことが適当なのか、「教育」の範疇がよいのか、再度検討させていただき、あらためて提案させていただきたい。

(委員) 小中高大の連携に関連して、長野大学の学生は、小・中学校にも入っていただき、いろいろな面でボランティアをしていただいている。地元の小中学生も、そんな姿を見ながら「自分も大きくなったらあの学校に行きたい」というような流れにもなる。

(部会長) 「前期まちづくり計画の検証」についてはこれで終了し、冒頭の「分野別意見聴取」に戻りたいが、まず一つ目の団体として、上田市多文化共生推進協会（AMU）に意見聴取することについて異議はないということによいか。

(全委員) 了承

(部会長) あともう一つ、御提案はないか。

できれば、市の施策に関連する役割を果たしているような団体の方がよいのではないかと。学校教育関連では、上田市PTA連合会あたりが思い浮かぶ。例えば、学校と地域との連携や、新学習指導要領への対応、先生方に対する協力体制とか、いろいろあるかと思うが。

(委員) PTA連合会については、行政として特に問題はあるのか。

(部会長) PTAの役員の方も親には変わりないし、公的役職についているわけではない。親としての立場からの発言ということによいのではないかと思う。

(委員) PTAは、どちらかという立ち位置が子どもに近いということもあるせいか、自分たちの子どもの問題として捉えてしまうところはあるかもしれない。

(委員) 項目がたくさんあり過ぎるので、市側から見て、特に重要と考えている部分はどのあたりか。

(委員) そこは言いづらいのではないかと思う。

(部会長) 今日、必ず決めなければならないのか。

(事務局) 上田市多文化共生推進協会（AMU）については、まず打診してみて、あとは日程の調整次第かと思う。もう一つの団体については、この場でまとまらないようであれば、できれば次回で決めていただき、次々回で意見聴取するというのも可能である。

(部会長) 次回の意見聴取が難しいようであれば、次々回にまとめて行うということも可能であるとのことなので、次回までによく考えていただき、意見を出していただきたい。

(3) その他

- ・第1回部会会議概要について内容の確認（修正なしで了承）

- ・第4回部会の日程について（下記の日程で決定）

日時：令和2年1月20日（月）午後1時30分から

場所：上田駅前ビルパレオ5階 教育委員会第1会議室

4 事務連絡

- ・次回（第3回）部会の日程の確認（下記の日程で決定）

日時：令和元年12月17日（火）午後1時30分から

場所：上田駅前ビルパレオ5階 教育委員会第1会議室（東庁舎2階 第3会議室から変更）

5 閉 会